

「調整授業時数制度」導入後の円滑な制度実施に向けて、令和8年度より「調整授業時数制度」を先取りして試行する学校を「サキドリ研究校」として、332校指定。先行的に教育課程の柔軟化に取り組む68校の研究開発学校（以下「先行研究開発学校」）と合わせて全国400校で実践国として、サキドリ研究校等の取組を支援するとともに、知見の蓄積及び横展開に取り組む

サポートマガジン『サキドリ』（文部科学省 授業づくりnote）

サキドリ研究校や先行研究開発学校、教育委員会の取組を支援し、全国の学校関係者の参考となるよう、サポートマガジン『サキドリ』において、事例紹介等を実施

事例記事

第1回

北海道知内町立知内小学校

【事例①】調整授業時数制度は学校として
目指す子供の姿を実現する"手段"として活用



第2回

神奈川県三浦市立三崎中学校

【事例②】中学校（教科担任制）における
調整授業時数制度の活用と工夫



第3回

鹿児島県出水市立鶴荘学園

【事例③】地域に根ざし、義務教育学校の強みを生かした
教育で多様な子供たちを包摂



文部科学省からの情報提供記事

調整授業時数制度の方向性

最新の検討状況を踏まえた調整授業時数制度の概要や
学校の取組を支援する国・教育委員会の役割のポイントを解説



サキドリ研究校情報交換会

全国のサキドリ研究校や、先行研究開発学校、都道府県・市区町村教育委員会が取組状況や課題等を共有する「情報交換会」を実施

第1回（令和8年5月20日）

参加者約550名

第2回（令和8年9月9日）

参加者約530名

1学期の具体的な実践の中で、試行錯誤を重ねて得られた手応えや工夫、
悩みなど相互に共有し、質問しあうなど、活発な意見交換が交わされた

【今日のねらい】

- ① 「サキ友」（サキドリ研究校の友達）
の取組について、情報交換を行い、
今後の実践につなげる！
- ② サキドリ事例を参考に
実践の視点を押さえておく！

文科省説明資料（抜粋）



意見交換の様子



◀レポート記事はこちらから

<https://mext-curriculum-gov.note.jp/n/ne6b5ac22aeb5>

【当日の意見の一部】

- 各学校がトライ＆エラーを繰り返しながら目指す
子供の姿の具現化のために尽力されていること
が分かった。取組を見直す際は、目的や課題、
ねらいに立ち戻ることが大切だと改めて実感した。
（校長）
- 各市区町村教育委員会や学校が制度の趣旨
や意義を十分に理解し、前向きに検討できるよ
う、域内での情報共有、指導・助言等を行うこ
との重要性を改めて認識した。（指導主事）

来年度に向けた予定

- 令和10年度からの先行実施期間において、調整授業時数制度の活用を可能とする方向で検討していることも踏まえ、令和9年度は、各市町村レベルでのモデル創出・知見蓄積が可能となるよう指定校の大幅増加に向けて追加募集を実施
- 本年度末を目途にサキドリ研究校における先行事例を事例集として取りまとめ、公表予定